取扱説明書補足資料－日本語

# FUJITSU Software ServerView Suite ServerView RAID Manager V7.0.3 以降 補足情報

2025/03
207-006 版

# 目次

# ■ はじめに

本書は、ServerView RAID Manager V7.0.3 以降に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView RAID Management 取扱説明書 （sv-raid-manager-ug-jp.pdf）

# ■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView RAID Manager (以下 SVRM)を対象にしています。

本書の対象バージョン ： V7.0.3 以降

# ■ 補足情報

# 1 インストール

## 1.1 インストールパッケージ

OS 毎に使用すべきパッケージが異なります。詳細は「ServerView Suite RAID Manager 取扱説明書」(sv-raid-manager-ug-jp.pdf)の「インストールとはじめに」の項を参照してください。ただし、以下の OS の場合は、適宜読み替えてください。

- Citrix XenServer 6.5 環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。
- Citrix XenServer 7.x 環境をご利用の場合は、「RHEL7-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 6 for x86_64 (64 bit)環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 7 for x86_64 (64 bit)環境をご利用の場合は、「RHEL7-64」環境に読み替えてください。

## 1.2 SVRM V4.2.08 以前の版からバージョンアップ

これまで設定していた HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャリブレーションスケジューラの設定内容は、V4.3.6 以降のタスク機能には自動的に引き継がれません。

タスク機能に切り替える場合は、HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャリブレーションスケジューラを先にアンインストールし、タスクの作成を始めから行ってください。

## 1.3 インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア / Java キャッシュクリア

GUI に Java を使用する場合、SVRM をインストール後、SVRM の画面を起動する前に必ず WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ（一時ファイル）を消去してください。

- Java のキャッシュデータ消去方法
  コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施します。

- WEB ブラウザのキャッシュデータ消去方法（Internet Explorer 8 の場合）
  「ツール」-「インターネットオプション」-「全般」タブより、閲覧履歴の[削除]ボタンから実施します。

### 1.4 現在インストールしているバージョンよりも、前のバージョンの SVRM をインストールする場合に必要な手順

SVRM は上書きダウングレードをサポートしておりません。以前のバージョンをインストールする場合は、アンインストールしてから再インストールを実施する必要があります。

SVRM for Windows を V6 以降の版数をインストールした環境に、V5 以前の版数をインストールする場合、追加で以下の手順が必要となります。
この場合、設定は引き継がれません。再度設定してください。

(1) インストールされている V6 以降の SVRM をアンインストールします。
(2) 次のフォルダを削除します。
    C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin¥
    ※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。
(3) 使用する V5 以前の SVRM をインストールします。

※ ダウングレードで問題が発生した場合、以下の手順を実施してください。この場合、設定は引き継がれませんので、再度設定してください。

Server View RAID Manager for Windows の場合：

(1) インストールされている SVRM をアンインストールします。
(2) 次のフォルダを削除します。
    C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥
    ※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。
(3) 使用する SVRM をインストールします。

Server View RAID Manager for Linux の場合：

(1) インストールされている SVRM をアンインストールします。
(2) 次のディレクトリを削除します。
    /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager
(3) 使用する SVRM をインストールします。

# 2 環境

### 2.1 他の ServerView 製品と依存関係

SVRM は他の ServerView 製品と依存関係はありません。

### 2.2 SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合

SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合は、SVRM に含まれる mib ファイルを ServerView Operations Manager に登録してください。登録しない場合、一部のトラップが「不明なトラップ」になる可能性があります。

### 2.3 SVRM V5.7.3 以降に対応する PrimeCollect

Windows 環境上で、SVRM V5.7.3 以降において PrimeCollect で資料を採取するには、ServerView Agent V6.20.03 以降に含まれる PrimeCollect が必要です。ServerView Agents V6.20.03 以降をインストールしてご利用頂くか、または ServerView Suite DVD V11.13.08 以降から PrimeCollect.exe をコピーしてご利用下さい。

# 3 運用

### 3.1 クライアント端末から二重監視

1 つのクライアント端末から 2 つ以上の SVRM（GUI）を起動して同一サーバを監視することはできません（正常に動作いたしません）のでご注意ください。

### 3.2 アクセス制限用グループ

アクセス制限を行うための「raid-adm」グループおよび「raid-usr」グループは自動で作成されません。アクセス制限を行う場合には、必要に応じてグループを作成してください。

### 3.3 VMware ESXi 環境での RAID 監視における SNMP Trap

VMware ESXi サーバを監視する場合、SVRM が発行する SNMP Trap は ESXi サーバを監視するサーバ（SVRM をインストールしたサーバ）が Trap の発行元となりますのでご注意ください。

### 3.4 MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの推奨値

MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの実行間隔については、各アレイコントローラのマニュアルに推奨値があればそれに従ってください。

### 3.5 SVRM が出力するイベントのヘッダー

SVRM が出力するメッセージは、先頭が「amDaemon:」または「ServerView RAID:」のどちらか一方を付加する形式です。

### 3.6 SVRM のプロセス（amDaemon）数

SVRM の正常稼働時のプロセス（amDaemon）数は、OS 環境および RAID カードにより異なります（1～3）。「ps -ef | grep amDaemon」または「/etc/init.d/aurad status」でプロセス数を確認してください。

## 3.7 ポート番号を 3173 から変更した場合

SVRM のポート番号を 3173 から変更した場合、ServerView Agents との連携ができません。また、SVRM サービスが定期的に再起動されます。

## 3.8 サーバのホスト名を変更する場合

サーバのホスト名を変更する場合、オブジェクトをホスト名で登録しているタスク(MDC など)を削除してから再作成してください。

## 3.9 サーバのホスト名の名前解決

ホスト名が解決されるようにネットワーク環境を設定してください。名前解決ができない場合は、SVRM サービスが正常に起動しない場合があります。

例: SVRM が起動せず、以下のメッセージが記録されます。

```
Waiting until ServerView-RAID service is listening on port #3173 0 giving up after 30 seconds
ServerView-RAID service is not listening. Continue anyway.
```

現象が発生する場合は「/etc/hosts」ファイルに設定を追記してください。

例:

```
192.168.0.1 Hostname    ★この行のように追記
127.0.0.1 localhost localhost.localdomain localhost4 localhost4.localdomain4
::1 localhost localhost.localdomain localhost6 localhost6.localdomain6
```

## 3.10 SVRM サービスの再起動

SVRM サービスの再起動を行うには、以下の手順を実施して下さい。

- Windows の場合
  「ServerView RAID Manager」サービスを再起動します。
- RedHat Enterprise Linux 6 以前, Oracle Linux 6 以前, VMware ESX の場合
  「# /etc/rc.d/init.d/aurad restart」コマンドを実行します。
- RedHat Enterprise Linux 7, Oracle Linux 7, SUSE Linux Enterprise Server 12, Citrix Xen Server 7 の場合
  「# systemctl restart svraid」コマンドを実行します。

## 3.11 イベント再収集の設定

SVRM V6.6.10 以降では、VMware ESXi サーバを監視する環境においてネットワークの障害などによる一時的な監視不能状態から復帰した際に、その間のイベントを収集して補完する機能を備えています。監視不能の期間が長い場合を想定して、一定時間以上過去のイベントを無効にするように設定できます。

環境ファイル piLSIStoreLibCIM.ini をテキストエディタで更新してください。

ファイルパス

Windows : C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin

Linux : /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

設定

EventLifespanFilterEnabled = True

ActualEventLifespanHours = 72（現在から残す時間範囲を指定します）

:

SeverityFilter = error

## 3.12 MDC とパトロールリードは同時に実行不可

MDC とパトロールリードは、どちらも RAID 構成の整合性のチェックと修復を行う機能です。これらの機能は同時に実行させることはできません。どちらか一方を実行するように設定する、または同時刻に実行しないようにスケジュールを設定してください。

## 3.13 Server View RAIDManager 配下のパーティション情報が表示されない場合がある

論理ドライブ数が 300 を超えている場合、Server View RAIDManager 配下のパーティション情報が表示できなくなります。論理ドライブ数は 300 未満にしてください。

## 3.14 OS のパッケージをアップデートまたはソフト（アプリケーション）をインストールした時の留意

OS のパッケージをアップデートまたはソフト（アプリケーション）をインストールした時に OS にインストールされたシステムライブラリ(libcrypto.so.1.1)と ServerView RAID Manager で使用しているバージョンの差異が発生して、「Authentication error」となり ServerView RAID Manager のログイン認証に失敗する場合があります。

ServerView RAID Manager のログイン認証に失敗した場合は以下の確認を行ってください。

確認方法

OS で使用しているシステムライブラリ(libcrypto.so.1.1)と ServerView RAID Manager で使用しているシステムライブラリ(libcrypto.so.1.1)で EVP_KDF_ctrl のシンボルが定義されていることを以下のコマンドを実行して確認してください。

出力結果が違う場合には対処方法の記載内容を実施してください。

```
# objdump -TC /usr/lib64/libcrypto.so.1.1 | grep EVP_KDF
# objdump -TC /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/libcrypto.so.1.1 | grep EVP_KDF
```

EVP_KDF_ctrl が定義されている場合は以下のように出力されます。

定義されていない場合には何も出力されません。

例:# objdump -TC /usr/lib64/libcrypto.so.1.1 | grep EVP_KDF

```
0000000000173820 g DF .text 00000000000000f0 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_ctrl
0000000000173910 g DF .text 000000000000008e OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_ctrl_str
```

00000000001737c0 g DF .text 0000000000000021 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_reset
00000000001739a0 g DF .text 0000000000000030 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_size
00000000001737f0 g DF .text 0000000000000023 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_vctrl
00000000001736a0 g DF .text 0000000000000111 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_CTX_new_id
0000000000173660 g DF .text 0000000000000031 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_CTX_free
00000000001739d0 g DF .text 0000000000000023 OPENSSL_1_1_1b EVP_KDF_derive

対処方法

ServerView RAID Manager V7.5.1 以降をインストールするか以下の対処を実施してください。
ServerView RAID Manager の OpenSSL ライブラリを OS のシステムライブラリへのリンクに置き換えてください。

1) libcrypto をバックアップ

1)-1 ServerView RAID Manager のインストール先の"bin"フォルダに移動

例:# cd /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/

1)-2 フォルダ内にある´libcrypto.so.1.1´のファイル名を変更

例:# mv libcrypto.so.1.1 ../libcrypto.so.1.1-backup-org

2) システムライブラリへのシンボリックリンクの作成

# ln -s /usr/lib64/libcrypto.so.1.1
libcrypto.so.1.1
# ll libcrypto.so.1.1
lrwxrwxrwx. 1 root root 27 2? 18 06:38 libcrypto.so.1.1 -> /usr/lib64/libcrypto.so.1.1

3) ServerView RAID Manager の再起動

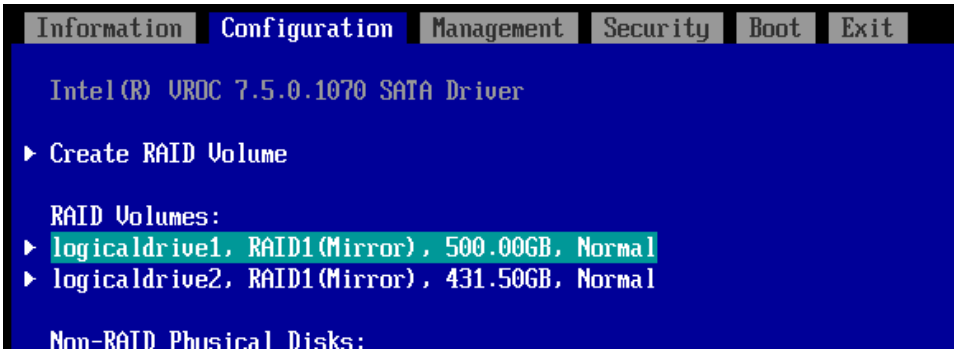
# systemctl stop svraid
# systemctl start svraid

## 3.15 Intel VROC (SATA RAID)に接続された論理ドライブの削除

Intel VROC (SATA RAID)に接続された論理ドライブの削除が失敗した場合は HII Configuration Utility を使用して削除してください。

- HII Configuration Utility で論理ドライブを削除する方法
  (1) OS 起動前に[F2]ボタンを押して UEFI セットアップメニューに進む。
  (2) 「Configuration」を選択する。
  (3) Intel VROC のコントローラを選択する。
  例:「Intel(R) Virtual RAID on CPU」、「Intel(R) VROC Controller」

(4) RAID Volumes にて削除したい論理ドライブを選択する。




(5) 「Delete」を選択する。

## 3.16 IPv6 が有効化された Linux 環境において、IPv4 で SVRM を使用する場合

Ipv6 が有効化された Linux 環境において、Ipv4 で SVRM を使用する場合、SVRM の GUI が表示できないことがあります。IPv6 を無効化するか、IPv6 で接続してください。

- Ipv6 を無効化する方法
  (1) 「/etc/default/grub」ファイルの「GRUB_CMDLINE_LINUX」に「ipv6.disable=1」を追記する。
  (2) 「/etc/sysctl.conf」ファイルに以下を追記する。
  net.ipv6.conf.all.disable_ipv6 = 1
  net.ipv6.conf.default.disable_ipv6 = 1
  (3) 「/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-xxx」ファイル(xxx はネットワーク名)の「IPV6INIT」を「no」に変更する。
  (4) OS を再起動後に、「# netstat -W -neopa | grep amDaemon」コマンドを実行して tcp6 がないことと tcp にポート(3173、34246)があることを確認する。

例:

```
# netstat -W -neopa | grep amDaemon
Tcp 0 0 0.0.0.0:3173      0.0.0.0:* LISTEN 0 24047262  19752/amDaemon off (0.00/0/0)
Tcp 0 0 127.0.0.1:34246 0.0.0.0:* LISTEN 0 24046222  19752/amDaemon off (0.00/0/0)
```

## 3.17 SSD の稼働時間が少ない状態で大量のデータを書き込んだ場合

SSD の稼働時間が少ない状態で大量のデータを書き込んだ際、イベントログに ID 11092 のイベントが出力される場合があります。
継続して出力される場合には書き込み容量を抑えるよう対策してください。
すぐ解消された場合はそのままご使用頂いて問題ありません。

## 3.18 故障により切り離された物理ディスクのステータスについて

故障により切り離された物理ディスクのステータスが「故障(またはディスクが認識されていません)」と表

示されず、「専用ホットスペア」と表示される場合があります。
「ログ」-「イベントログ」を確認し、対象の物理ディスクから以下のイベントが出力されている場合、そのディスクは故障により切り離されたとみなしてください。

ID　　10472
イベント State change on disk ([..]) from operational to hot spare

### 3.19 Intel VROC (VMD NVMe RAID)の環境で、「論理ドライブの作成」項目が表示される

Intel VROC (VMD NVMe RAID)の環境で、「論理ドライブの作成」項目が表示される場合がありますが使用することはできません。

### 3.20 SSD のパトロールリードについて

Intel VROC VMD NVMe RAID コントローラ および MegaRAID アレイコントローラにおいて SSD のパトロールリード機能を使用することはできません。

### 3.21 Intel VROC コントローラの専用ホットスペアについて

VROC コントローラにおいて、Linux では待機ドライブとして専用ホットスペア(Dedicated Hotspare)を使用することはできません。
詳細は以下のドキュメントをご参照ください。
「Intel® Virtual RAID on CPU (Intel® VROC) ご使用上の留意・注意事項」
製品サポートサイトより、右上のサーチを選択し、「VROC 注意事項」のキーワードで検索できます。
https://support.ts.fujitsu.com/?lng=jp

### 3.22 SSL セキュリティオプション

使用する Web ブラウザの SSL セキュリティオプションの推奨は、TLSv1.2 以上です。
V7.3.3 以降 TLS v1.1 以下がデフォルトで無効となっています。

SSL セキュリティオプションの設定については、ホワイトペーパー 「セキュアな PRIMERGY サーバ管理」の「RAID Manager」の項をご参照ください。
当該文書は、以下のページで「サーチ」ボタンをクリックし「セキュアな PRIMERGY サーバ管理」を検索する事でダウンロードできます。
https://support.ts.fujitsu.com/

### 3.23 SVRM 以外のアプリケーションが TCP ポートの 34246 を使用している場合

SVRM では、HTML5 版クライアント向けに、TCP ポート番号の"34246"を使用しています。
他のアプリケーションで、この TCP ポート番号の"34246"を使用していた場合、
(OS の動的ポートとして"34246"が割り当てられた場合も含む)
TCP ポートの競合を回避するために、下記の(1)か(2)を適用してください。

(1)SVRM が使用するポート番号を空きポート番号(OS の動的ポートの範囲にも含まれないポート番号)に変更する。

・Linux の場合: <例:Red Hat Enterprise Linux 7.8>

1)SVRM がインストールされたフォルダの bin フォルダ内の、
amDPatch.ini の 32 行目付近 "RESTPort = 34246"の「34246」を別の空きポート番号に変更する。
<例>/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/amDPatch.ini

2)SVRM を再起動する。
systemctl restart svraid

・Windows の場合: <例:Windows Server 2016>

1)SVRM がインストールされたフォルダの bin フォルダ内の、
amDPatch.ini の 40 行目付近 "RESTPort = 34246" の「34246」を別の空きポート番号に変更する。
<例>C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin¥amDPatch.ini

2)SVRM を再起動する。
OS の[サービス]より、"ServerView RAID Manager"を[再起動]する。

(2)OS の動的ポートの範囲から"34246"を対象外としておくことで、
SVRM 以外のアプリケーションに"34246"が割り当てられないようにする。

・Linux の場合: <例:Red Hat Enterprise Linux 7.8>

1)動的ポートの範囲を確認する。(範囲内に"34246"が含まれていなければ、以降は不要。)
sysctl -a | grep net.ipv4.ip_local_port_range

2)/etc/sysctl.conf に、対象外とするポートを定義する。
net.ipv4.ip_local_reserved_ports = 34246
の行を追加する。

3)設定を反映させる。
sysctl -p

4)対象外としたポートが表示されることを確認する。
cat /proc/sys/net/ipv4/ip_local_reserved_ports

・Windows の場合: <例:Windows Server 2016>

1)動的ポートの範囲を確認する。(範囲内に"34246"が含まれていなければ、以降は不要。)
netsh int ipv4 show dynamicport protocol=tcp

2)動的ポートの範囲から"34246"を対象外とする。(管理者権限で実行)

netsh int ipv4 Add excludedportrange protocol=tcp startport=34246 numberofports=1

3)対象外としたポートが表示されることを確認する。

netsh int ipv4 show excludedportrange protocol=tcp

# 4 トラブルシューティング

## 4.1 SVRM の画面が開かない

- キャッシュの削除

  Web ブラウザや、JRE の一時ファイル(キャッシュ)に不要なデータが格納されている可能性があります。以下の一時ファイルを削除してください。

  - Web ブラウザのインターネット一時ファイル

    Internet Explorer の場合

    [ツール]－[インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

    FireFox の場合

    [ツール]－[オプション]を起動し、「詳細」を選択、「ネットワーク」タブの「キャッシュされた Web ページ」項目にある「今すぐ消去」を実行してください。

  - JRE のインターネット一時ファイル

    Java コントロールパネルを起動し、インターネット一時ファイルの「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

- Java のセキュリティ設定

  Java 7 U25(7u25)以降のバージョンをお使いの場合、Java Applet(ServerView Operations Manager、SVRM など)の画面が正しく表示されないことがあります。以下の対処を行うことで Java Applet を実行することができます。以下のいずれかの対処を行ってください。

  - 対処 1

    Java 7 の最新版にアップデートしてください。

    なお、環境内に ServerView Operations Manager がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に ServerView Operations Manager の以下のサービスを記載の順番に停止してください。

    (1) ServerView Download Service
    (2) ServerView Services
    (3) ServerView JBoss Application Server 7

    JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください。

    (1) ServerView JBoss Application Server 7
    (2) ServerView Services
    (3) ServerView Download Service

  - 対処 2

(1) Java コントロール・パネルを開きます。

(2) セキュリティタブのセキュリティ・レベルを「中」にし、「適用」をクリックします。

インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、掲記の対処 1、2 に加え、以下の設定も合わせて実施してください。

(1) Java コントロール・パネルを開きます。

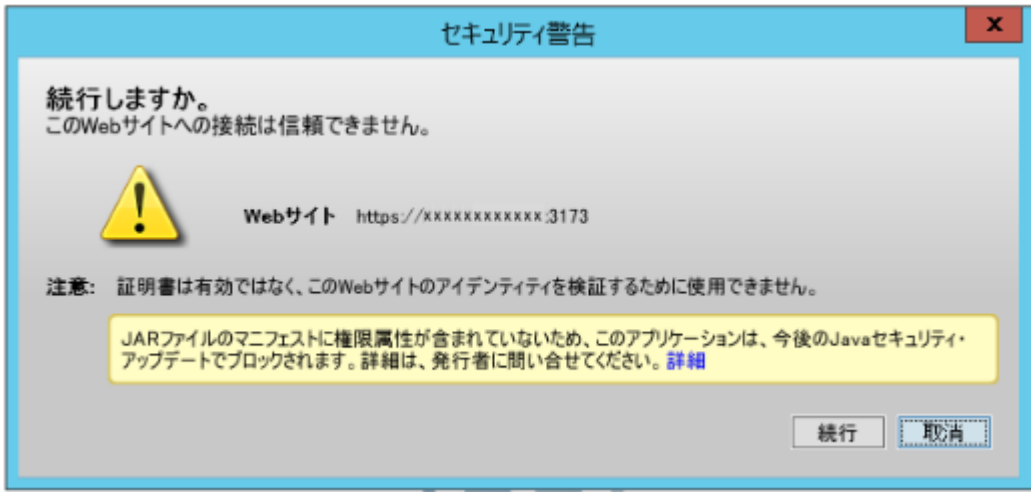
(2) 詳細タブの「証明書失効チェックを実行」で「チェックしない（非推奨）を選択し、「OK」をクリックします。

## 4.2 GUI 表示時に「エラー。クリックして詳細を確認してください」の画面が表示される

Web ブラウザを一度閉じてから、SVRM の URL を再度入力してください。または、スタートメニューから SVRM のアイコンを再度選択してください。

「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」の画面にて「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」のクリック操作を行う際、続けて表示される以下の「セキュリティ警告」のダイアログ画面において、速やかに「続行」を選択してください。

併せて、「PRIMERGY ServerView Suite RAID Manager User Manual」（manual.pdf）の「2.3 セキュリティ証明書」の項もご参照ください。




## 4.3 SVRM の動作が意図したとおりに動作しない

ログイン画面が開けないなど SVRM の動作が意図したとおりに動作しない場合、以下の処置により復旧できることがあります。復旧を優先する場合は、下記手順を実施して適宜復旧を試みてください。

【現象による場合分け】

対象 OS： 全 OS

- SVRM のログイン画面が開けない場合は、復旧手順(1)～(10)を実施してください。
- その他の不具合が SVRM で発生している場合は、復旧手順(5)～(10)を実施してください。

対象 OS： ESXi

- 登録した ESXi ホストが SVRM に表示されないなど ESXi に関係する場合は、復旧手順(11)

以降を実施してください。

【復旧手順】

(1) WEB ブラウザを起動するマシンから SVRM がインストールされているサーバへの通信経路に問題がないことを確認する(ping など)。問題があれば、ネットワーク接続を確認する。
復旧しない場合は次へ。

(2) SVRM がインストールされているサーバについて、ポート 3173 がファイアウォールによりブロックされていないことを確認する。ブロックされていたら解放する。
復旧しない場合は次へ。

(3) WEB ブラウザを起動するマシンにて、SVRM がインストールされているサーバの名前解決ができることを確認する。問題ある場合は修正するか、または IP アドレスを直接指定してアクセスする。
例: https://192.168.x.x:3173
復旧しない場合は次へ。

(4) WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)をクリアする。
復旧しない場合は次へ。

(5) SVRM サービスを再起動する。
「3.10 SVRM サービスの再起動」の手順を実施してください。
復旧しない場合は次へ。

(6) SVRM が動作しているサーバ(OS)を再起動する。
復旧しない場合は次へ。

(7) SVRM を最新版にアップグレードする。
復旧しない場合は次へ。

(8) Java を再インストールする。
※アンインストール後に最新版の Java をインストールすることを推奨。
復旧しない場合は次へ。

(9) SVRM をアンインストールして、以下のフォルダまたはディレクトリを削除した後に最新版の SVRM をインストールする。

- Windows の場合
  C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager
- Linux の場合
  /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager

復旧しない場合は次へ。

(10) SVRM が動作しているサーバ(OS)の修正パッチおよびサービスパックの最新版を適用する。
復旧しない場合は次へ。

※ESXi ホストを監視している場合は以下も実施してください。

(11) ESXi ホストを SVRM に再登録(ESXi ホストの削除→登録)する。

削除方法/登録方法は、以下のインストールガイドをご参照ください。

https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/

ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 6 インストールガイド

復旧しない場合は次へ。

(12) ESXi ホスト側の sfcbd プロセスと、SVRM サービスを再起動する。

- ESXi Shell から行う場合
  1. vSphere vSphere ESXi 6 サーバの ESXi Shell にログオンする。
  2. sfcbd を停止する。
     「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog stop」コマンドを実行する。
  3. sfcbd の停止を確認する。
     「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is not running」と出力されることを確認する。
  4. sfcbd を起動する。
     「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog start」コマンドを実行する。
  5. sfcbd の起動を確認する。
     「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。
  6. SVRM サービスを再起動する。
- vSphere Client から行う場合
  1. vSphere Client から vCenter Server または ESXi ホストにログインする。
  2. 左側に表示されるインベントリ パネルから対象の ESXi ホストを選択し、「構成」タブ - 「ソフトウェア」 - 「セキュリティプロファイル」を選択する。
  3. サービスの「プロパティ」をクリックし、サービス プロパティを開く。
  4. 「CIM サーバ」を選択し、「オプション」ボタンをクリックする。
  5. サービス コマンドで「停止」をクリックする。
  6. サービス コマンドで「開始」をクリックする。
     ※「再起動」コマンドの場合、タイムアウトして失敗する場合があります。このため、「開始」をクリックしてください。
  7. vSphere vSphere ESXi 6 サーバの ESXi Shell にログオンする。
  8. sfcbd の起動を確認する。
     「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。
  9. SVRM サービスを再起動する。

復旧しない場合は次へ。

(13) ESXi ホスト(OS)と SVRM サービスを再起動する。

以下、その手順。

1. ESXi ホスト(OS)を再起動する。
2. 「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力

されることを確認する。

3. SVRM サービスを再起動する。

復旧しない場合は次へ。

(14) SVRM を最新バージョンにアップデートする。

SVRM とVMware ESXi のサポート状況を確認し、組合せをサポートしている最新バージョンを選択してください。

復旧しない場合は次へ。

(15) ESXi ホスト(OS)を最新バージョンにアップデートする。

ESXi ホスト(OS)のアップデートにより SVRM との組合せがサポートされなくなる場合は、SVRM も組合せをサポートしているバージョンにアップデートする。

## 4.4 オンラインヘルプが正しく表示されない

オンラインヘルプが正しく表示されない場合は、WEB ブラウザのエンコード選択を「自動」に設定してください。

例: Internet Explorer 8 の場合

メニューバー「表示」-「エンコード」-「自動」

## 4.5 SVRM の動作確認方法

SVRM の動作確認は、amCLI コマンドによってコマンドラインから確認できます。

「amCLI -l」の結果が情報リストだった場合、正常に動作しています。

例: >amCLI -l

```
>21/3: System, 'RAIDManager'
>  32/1: SAS adapter, 'FTS RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) (1)'
>    32/3: SAS Backplane
>      32/4: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (0)', 152096MB
>      32/5: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (4)', 152096MB
>    32/2: Logical drive 0, 'LogicalDrive_0', RAID-1, 152096MB
>  21/0: Multiplexer, 'ServerView RAID Manager'
>    21/4: Scheduler
>      21/10: Task, 'Write snapshot'
>    21/5: E-mail log
>    21/1: File log
>    21/2: System log
>    32/0: Plugin, 'LSIStoreLib-Plugin'
```

「amCLI -l」の結果が情報リスト以外だった場合、問題が発生している可能性があります。サービス再起動または OS 再起動を実施してください。

例： >amCLI -l

> Communication with Core Service failed.

[問題が発生している可能性がある場合のメッセージ]

- Communication with Core Service failed.
- Database failed.
- Database not yet initialized.
  注）サービス起動直後は"Database not yet initialized."になる場合があります。時間を置いてから実行してください。

## 4.6 SEL(System Event Log)に「Major HD on SAS controller * Enclosure * Slot * prefail」が出力される

SAS カード接続の ETERNUS が監視対象になっている場合、次のメッセージが SEL に出力されます。

Major HD on SAS controller * Enclosure * Slot * prefail

SAS カード接続の ETERNUS は監視対象ではありませんので、このメッセージは無視してください。または、該当の装置を監視対象から外してください。

## 4.7 /usr/lib64 を使用する場合

Linux 環境において、LD_LIBRARY_PATH に/usr/lib64 を設定すると amCLI コマンドが次のようにエラーとなります。

```
# export LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib64
# amCLI –l
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/amCLI:
/usr/lib64/libstdc++.so.6: version `CXXABI_1.3.8' not found (required by
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/libicuuc.so.57)
```

SVRM は 32bit ライブラリ/usr/lib/libstdc++.so.6 を使用して動作します。しかし前述のように/usr/lib64 を設定しますと、64bit ライブラリ/usr/lib64/libstdc++.so.6 が使用されることによりエラーとなります。

/usr/lib64 を使用する場合は、次のように 64bit ライブラリサーチパス LD_LIBRARY_PATH_64 に設定してください。

```
# export LD_LIBRARY_PATH_64=/usr/lib64
# amCLI -l
```

## 4.8 OS のカーネルログに「kernel: mpt3sas_cm0: log_info(0x300301e1): originator(IOP), code(0x03), sub_code(0x01e1)」が出力される

PSAS CP500e/CP503i カードを搭載した RHEL 環境において以下のメッセージが出力される場合があります。

---

kernel: mpt3sas_cm0: log_info(0x300301e1): originator(IOP), code(0x03), sub_code(0x01e1)

---

このメッセージ RAID コントローラで出力されるメッセージです。

出力されていても問題はないため、このメッセージは無視してください

以上